

新生 JR 東労組運動と 1 2 地本の団結を破壊する 「真実の声」を許さない秋田地方本部見解

JR 総連・JR 東労組の大会で組織破壊と確認された「JR 東労組を憂う会」結成趣旨の抜粋を掲載し、2018年6月10日「真実の声」がインターネット上にアップされた。

「真実の声」では、投稿者が匿名であることをいいことに、数々の嘘を並べ、中央本部を「残留執行部」と罵り、新生 JR 東労組運動を推し進める中央本部や地方本部に対し嘘で塗り固めた批判を投げつけている。

この「真実の声」は組織を強化・拡大するために、1 2 地本が団結し信頼を回復しようとする新生 JR 東労組運動を破壊する以外の何物でもない。さらに言えば、個人を特定して誹謗中傷することは、もはや犯罪行為である。秋田地方本部はこの「真実の声」を「JR 東労組を憂う会」と同質であり、組織破壊と断定した。この「真実の声」に悪意を持って携わる者たちを断じて許さない決意である。

「真実の声」に掲載された内容は、不特定多数が閲覧できるインターネットにおいて、組織内部でしか知り得ない情報をもとに一部を切り取りねつ造し匿名で掲載している。本部青年部の定期委員会において、秋田地本青年部は「18春闘を青年部で主体的に総括するため親の総括待ちではなく青年部として議論してきたことを教えてもらいたいの、八王子地本の見解を求める」と発言をした。その時に東京地本から「もうやめようよそういうの！」等という野次が飛んだため、後日中央常任委員会で東京地本青年部長に「野次の意味」について問い質し議論した。しかし、中央常任委員会での議論内容がインターネット上にアップされ、「大宮地本も野次を言っていた」などと「野次」それ自体の問題にすり替え、真剣に議論した青年部の気持ちを踏みにじった。このような行為は地方本部や中央本部との間に不信感をもたらす組織破壊の何物でもない。青年部運動を萎縮させる掲載をすることは断固として許されるものではない。

新生 JR 東労組運動を推し進め、1 2 地本の団結をつくり出すために、秋田地本はあらゆる組織破壊を許さず、全組合員と共に JR 東労組運動をつくり出す決意である。

2018年11月3日
東日本旅客鉄道労働組合
秋田地本第5回執行委員会